

# 病害虫発生注意報 第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 果樹カメムシ類の多発に注意！！

県内の各地で果樹園への飛来が認められており、ナシ園地では果実に被害が確認されている。今後、果樹園地への飛来数が増加し、例年より吸汁被害が多くなることが懸念されるため、防除の徹底が必要である。

◎病害虫名 **果樹カメムシ類**（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ）

1 発生地域：県下全域

2 発生程度：多い

3 注意報発令の根拠

(1)果樹研究センターでの6月6半旬～7月5半旬のフェロモントラップへのチャバネアオカメムシの累積誘殺数は86.0頭であり、平年(7.2頭)より多い。県内5地域の6月5半旬～7月4半旬の累積誘殺数は33.5頭であり、近年値(13.0頭)より多い。

(2)一部の産地で昼間に果樹園内でカメムシ類成虫が認められる。

(3)ナシなど、一部で果実への被害がすでに確認されている。

(4)8月の気温は平年並か高いと予想されており、カメムシ類の行動が活発になると予想される。

4 防除対策及び実施上の留意点

(1)夜、気温が高く、風の弱い日に飛来が多くなる。また、飛来数は園地による差が大きく、山林に近いところで多くなる傾向があり、過去に飛来が多かった園地では特に注意する。

(2)果樹カメムシ類は夕刻から活発に飛翔するので、朝夕の薬剤散布が効果的である。

(3)薬剤の特性に応じて効果的な防除に努める。

○有機リン系殺虫剤：即効的な殺虫効果があるが、残効期間が短い。

○ネオニコチノイド系殺虫剤：殺虫活性はやや低いが、吸汁阻害効果としての残効期間は長い。

- 合成ピレスロイド系殺虫剤:殺虫活性が高く、残効期間も長いが、天敵類に対する影響が大きく、ハダニ類など他の害虫の多発を誘発しやすいので注意する。
- (4)収穫時期に近い品種については、農薬の使用回数、使用時期(収穫前日数)に注意する。
- (5)農薬散布にあたっては、事前に周辺住民等に対して、十分な周知に努め、周辺作物や住宅地等への飛散防止に努める。

【参考資料】

フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺頭数(果樹研究センター)

	6月6半旬	7月1半旬	7月2半旬	7月3半旬	7月4半旬	7月5半旬	計
本年	3.5	34.0	5.0	12.0	26.5	5.0	86.0
平年	0.7	1.4	1.6	1.4	1.3	0.8	7.2

フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺頭数(県内5地域平均)

	6月5半旬	6月6半旬	7月1半旬	7月2半旬	7月3半旬	7月4半旬	計
本年	4.0	5.5	6.3	4.8	8.4	4.5	33.5
近年値	2.8	2.3	2.2	2.7	1.6	1.3	13.0



チャバネアオカメムシ  
体長 10~12mm



クサギカメムシ  
体長 13~18mm

問合せ先	農業研究所 病理昆虫課
TEL076-429-5249	FAX076-429-2701